

合同シンポジウム「ともに考える場の必要性」

東京頸髄損傷者連絡会 麩澤 孝

2004年、都内福祉センターにて、東京頸髄損傷者連絡会と日本リハビリテーション工学協会が合同でシンポジウムを開催したことが「合同シンポジウム」の切っ掛けになりました。

その時のテーマはユーザーパーティシペーション(当事者中心の福祉機器開発)でした。ユーザーの生活を支援するリハ工学の原点をみつめ、当事者中心の福祉機器開発、当事者と開発者が一緒に行う福祉機器開発の方向性・必要性について講演ならびにディスカッションをおこないました。

当事者(ユーザー)団体と開発研究者、セラピストが同じ目線で集まり、議論したシンポジウムは当時では斬新なものだったと記憶しています。

2008年には全国頸髄損傷者連絡会と日本リハビリテーション工学協会が合同でシンポジウムを開催し今に継続されています。テーマは「福祉機器にまつわる地域の格差、サービスの格差、情報の格差」様々な格差を考えるシンポジウムになりました。どこに住んでいても満足できる生活をするために、必要な機器を手に入れ、活用するにはどうすればよいのか?そしてこのような機器を実現するためのリハビリテーション工学の役割はどうあるべきか?各地域の当事者の発言を織り交ぜて、現状を認識し、福祉機器の将来の姿を討論しました。



2009年には「外出」がテーマでした。外出したいが様々な要因(環境、制度、家族等)により外

出できていない重度障害者が、「外に出てみたい!」「このような方法があるのか!」「自分にもできるかもしれない!」と大きな機会となるシンポジウムを行いました。初の関西での開催もあり多くの参加者と議論でき、終了後は交流会もあり、楽しい時間を過ごせました。



2010年には「頸損実態調査から見えてきたもの、当事者の視点・リハ工学からの視点」をテーマに協力企業を募集し「最新の支援機器の紹介と展示」も行いました。実際に支援機器を見ながら、ユーザー、事業者、研究者との意見交換の場にも活用されることとなりました。

この様にユーザーと研究者、または支援機器業者が合同で行うイベントものべ4回を数えました。様々なテーマで議論し交流し多くの方法やヒントが導けたと思います。

3月には「住」をテーマに大阪で開催予定です。車椅子でも使いやすい住宅改造や支援機器の導入、細かい工夫など私たちにとっては絶対に必要で有意義なテーマです。

ぜひ、当事者・建築・街づくり・リハ工学・セラピストなど様々な立場の方に参加いただき、より良い住環境が実現することを皆さんで考えて行ければと思います。